

英語教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	英語授業に「オモロイ」と「深い」をプラス！ 探求型英語授業をはじめよう	
日 時	令和8年8月4日(火)	
会 場	北広島市立東部中学校	
講 師	上山 晋平 氏 (福山市立福山中・高等学校教諭)	
参加者	45 名	
研修会 の 様 子		研修は、リラックスした雰囲気の中、ペアでの自己紹介とアイスブレイクから始まりました。参加者は「探究型のような授業」の経験を共有し、学び合える土台を築きました。続いて、教育課程企画特別部会の論点整理をもとに、「持続可能な社会の創り手」を育むという現代の教育理念を再確認しました。探究型英語授業の魅力は「生徒の目が輝く」ことにあり、教師も楽しんで取り組む姿勢が、主体的・対話的で深い学びの実現に不可欠であると示されました。
		教科書を「素材」とし、指導者がいかに「調理」して魅力的な単元ゴールを設定するかを学びました。生徒が当事者として取り組めるよう、Localize(地域化)等の視点を用い、「目的・場面・状況・相手(モクバジウ)」を具体化する重要性が説かれました。ワークでは、ChatGPT等の生成AIを活用し、ブルームのタキソミーに沿った多様なレベルの問いを生成するプロンプトを体験しました。AIを「心強い相棒」として、効率的に課題を磨き上げる手法を習得しました。
		次に、生徒自らが問いを立て、深めるプロセスを体験しました。教科書を読み、気になったことから問いを育て、英語のプレゼンへとつなげる流れを確認しました。単元構成では、冒頭でゴールを示し、「中間プレゼン」での振り返りを経て改善を図る「自己調整学習」の視点が強調されました。生徒に問いを立てる力を育むことで、単なる正解探しではなく、個々の関心に基づいた多様で深い学びが生まれることが、具体的な事例とともに示されました。
		探究の成果を単なる「発表」で終わらせず、校内掲示や地域への発信、コンテスト応募等を通じて社会や生活とつなげる工夫が紹介されました。実際に探究型授業を受けた生徒の「社会のいろんな面に目を向けるきっかけになった」という生の声は、本実践の意義を強く印象付けました。最後は、学期に1〜2回の重点単元から無理なくスタートする、具体的な一歩を共有して閉会しました。